

# 住宅における防犯対策についてのアンケート調査結果（概要）

## 1 目的

一般住宅において、空き巣などの被害が依然として多く発生しており、また、北陸地方では住宅の鍵（かぎ）をかけずに盗難被害に遭う「無施錠被害率」が全国平均に比べてかなり高くなっている。

このため、北陸三県消費生活（支援）センターでは、住宅における防犯対策の状況や住宅用防犯用品の設置状況・有効性などについて、アンケート調査を行い、その結果を県民に情報提供することにより、県民生活の安全・安心の一助に資することとする。

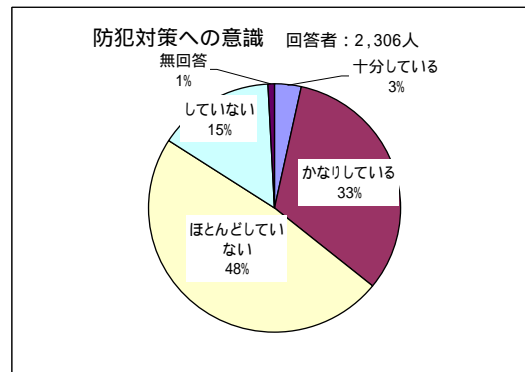
## 2 調査期間及び対象者

平成 20 年 10 月～平成 21 年 1 月 北陸三県の県民 2,306 人

## 3 調査結果

### （1）住宅における防犯対策への意識

回答者 2,306 人のうち、「ほとんど対策をしていない」が 48%と約半数を占め、「対策をしていない」15%を合わせると 6 割強の人が住宅での防犯対策は不十分であるとの意識であった。



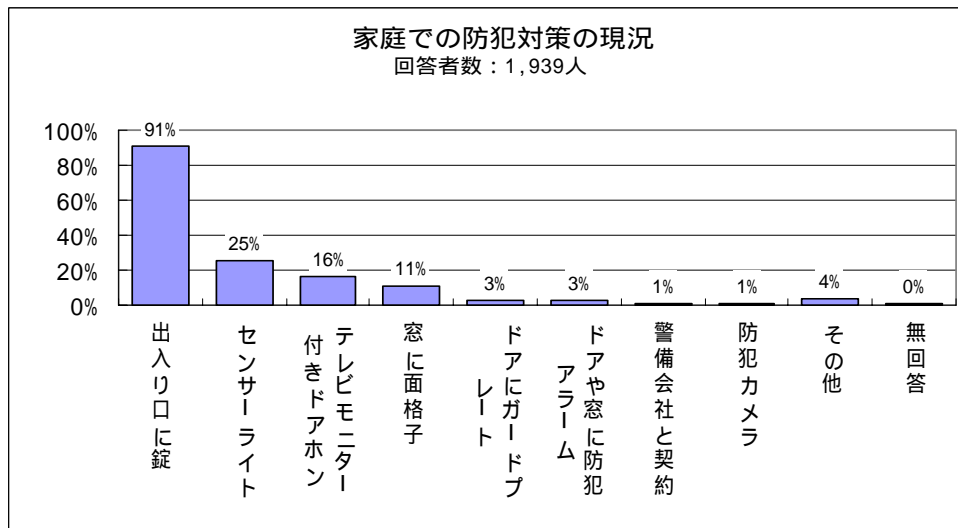
### （2）住宅における防犯対策の現況

#### ア 現況

防犯対策を「十分している」、「かなりしている」及び「ほとんどしていない」と答えた 1,939 人に対して複数回答を求めたところ、「出入りに錠」が 91%と最も多く、次いで「センサーライト」25%、「テレビモニター付きドアホン」16%の順であった。

なお、空き巣等侵入者の最も多い手口は窓ガラス破りといわれているが、「ドアや窓に防犯アラーム」を取り付けている人は 3%と非常に少なかった。

防犯アラーム等は比較的低価格で市販されており、家庭で容易にできる防犯対策の一つとして、積極的に取り付けを進めていくことが望まれる。



### イ 玄関等の出入り口の錠の種類

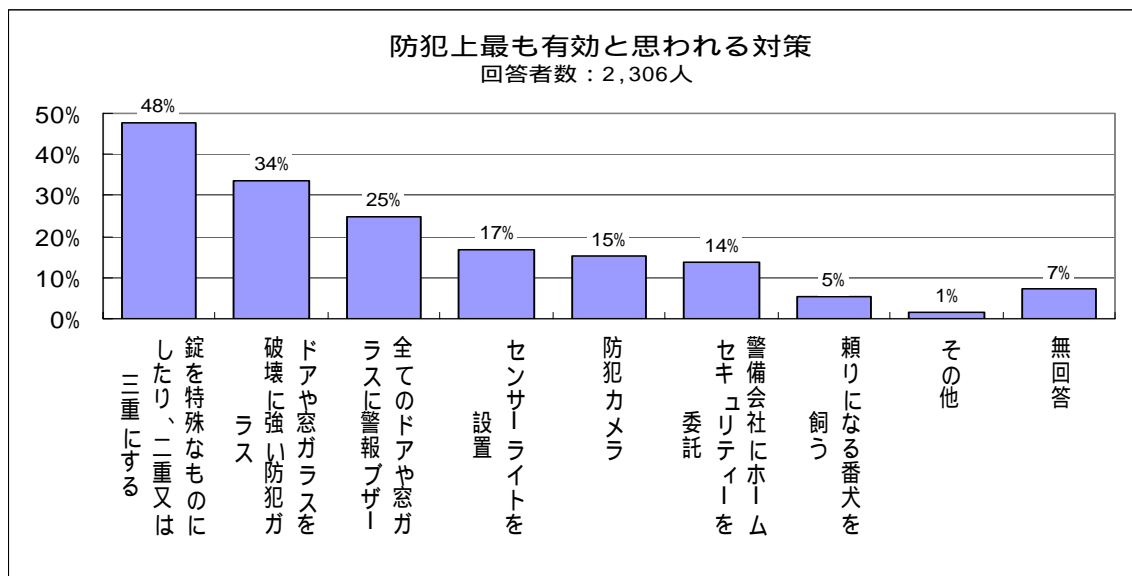
「玄関をはじめ勝手口など出入り口に錠を設置している」と回答した 1,770 人の玄関等出入り口の錠の種類（複数回答）は、「シリンダー錠」が 93%と大多数を占めた。他のリモコンロックやテンキーロック等は 1%以下とごく僅かであった。

### ウ ドアや窓に防犯アラームの設置

「ドアや窓に防犯アラーム（警報ブザー）を設置している」と回答した 53 人の防犯アラームの種類（複数回答）は、「振動または開閉時アラーム」が 49%で最も多く、次いで「ガラスの割れたときだけ鳴る窓用防犯ブザー」が 17%であった。

## （3）住宅の防犯上最も有効と思われる対策

住宅の防犯上最も有効と思われる対策（2つまで選択回答）は、「錠を特殊なものにしたり、二重、三重にする」が最も多く 48%を占め、次いで「ドアや窓ガラスを破壊に強い防犯ガラスなどにする」が 34%、「全てのドアや窓ガラスに警報ブザー」25%、「センサーライトを設置する」17%、「防犯カメラを設置する」15%、「警備会社にセキュリティを委託する」14%、「頼りになる番犬を飼う」5%の順であった。



## （4）防犯対策をしていない理由

住宅における防犯対策の意識で、「ほとんど対策をしていない」及び「対策をしていない」と答えた 1,460 人に防犯対策をしていない理由（複数回答）を求めたところ、「費用がかかる」が 41%と最も多く、次いで「どのような対策が有効かわからない」が 28%、「どんな対策をしても被害に遭うときは遭う」23%、「必要性を感じていない」22%、「面倒である」17%、「自分ではなかなかできない」16%の順であった。

年代別で比較すると、いずれの年代も「費用がかかる」が最も多く、次いで「どのような対策が有効かわからない」であった。ただし、若い世代ほど「費用がかかる」の占める率が高かった。

## （5）「最も多い侵入手口が窓ガラス破りである」ことの認識

回答者 2,306 人のうち、「だいたい知っている」が 37%と最も多く、次いで「知っている」が 33%であり、合わせると 7 割の人が認識していた。

## (6) 北陸地方の「無施錠の被害率が高いこと(約6割、全国平均約4割)」の認識

回答者 2,306 人のうち、北陸地方では家の鍵をかけずに窃盗被害に遭う比率が高いことについて、「知らない」と答えた人が 45%と約半数の人が認識していなかった。

## (7) 防犯性能の高い建物部品(CP部品)の認知度

回答者 2,306 人のうち、防犯性能の高い建物部品(CP部品と呼び、ドア、窓、シャッター、鍵等において、一定の防犯性能を示す。)の認知度は、「知っている」が5%(105人)と非常に少なかった。今後、防犯対策の向上を目指して、行政や民間団体等が一層の普及啓発を図る必要があると思われる。

CPは英語の「Crime Prevention(防犯)」の略



<CPマーク>

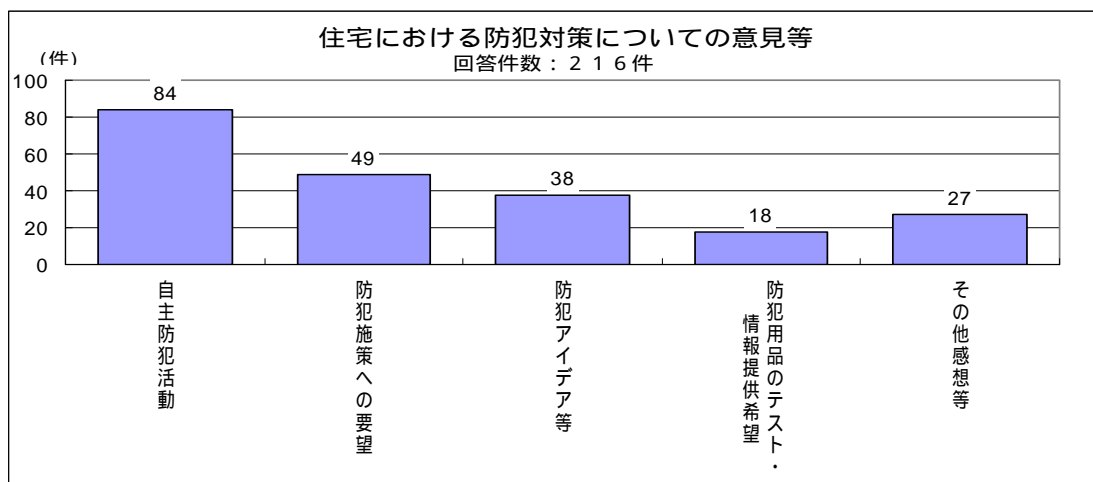
## (8) 防犯建物部品(CP部品)の設置

CP部品を「知っている」と答えた105人のCP部品の設置状況は、「設置している」及び「一部設置している」を合わせると31%であったが、アンケート調査回答者全体(2,306人)からみると1.4%であり、CP部品を設置している人はごく僅かであった。

## (9) 住宅における防犯対策についての自由意見等

自由意見等は216件あり、その内訳は、「自主防犯活動」に関するものが84件と最も多く、次いで「防犯施策への要望」49件、「防犯アイデア等」38件、「防犯用品のテスト・情報提供希望」18件であった。

この結果から、防犯は、自ら心掛け、実行しなければならないと思っているが、行政などの防犯施策による指導的役割も期待していると考えられる。



### ア 「自主防犯活動」の内容

自主防犯活動の主な内容は、地域・近隣での防犯活動の連携や家庭での防犯対策の実行例などであった。

### イ 「防犯施策への要望」の内容

行政等に対する防犯施策への要望の主な内容は、防犯対策の啓発・情報の提供、地域での街灯等の一層の整備、防犯教育(防犯講習会等)、警察等の防犯パトロールの強化などであった。

## ウ 「防犯アイデア等」の内容

家庭や地域における防犯対策のアイデア等の主な内容は、住宅用防犯用品・設備の活用や家庭での防犯の心掛け等に関するものであった。

## エ 「防犯用品のテスト・情報提供希望」の内容

住宅で使用する防犯用品のテストや情報提供の希望の主な内容は、住宅用防犯用品や設備のテストや情報提供を求めるものであった。

北陸三県の消費生活（支援）センターでは、今回、同時に窓ガラスなどに設置する防犯アラームのテストを実施したので、情報提供する。

## 4 消費者へのアドバイス

アンケート調査結果及び警察機関の啓発情報から、次のことに留意して、家庭や地域での防犯対策に積極的に取り組みましょう。

### (1) 家庭での防犯の心掛け

在宅時でも施錠し、来訪者があった時も安易にドアを開けず、必ず相手を確認しましょう。

短時間の外出時でも施錠し、忘れがちなトイレや浴室の窓等の施錠も確認しましょう。

合鍵は発見されやすいところ（郵便ポスト、植木鉢等）に置かない。また、家の周りには脚立等、足場になるものは置かないようにしましょう。

留守中であることや、一人暮らしがわからない工夫をしましょう。

車はキーを抜き取るとともに確実にドアロックして、バッグ等は車内に置かない。また、自転車は鍵をかけ、ツーロックを心掛けましょう。

### (2) 家庭での防犯設備の強化

玄関等出入り口の錠を二重にする、防犯性の高い建物部品（CPマーク入りのドア、窓、錠等）に取り替える等、セキュリティを高めましょう。

屋外灯（センサーを含む）の設置や、空き巣等の侵入手口で最も多い窓ガラス破りを防ぐため、窓ガラス用防犯アラームや補助錠、防犯ガラス（2枚以上のガラスに樹脂中間膜を挟んだもの）等を取り付けましょう。

警察庁では、住宅等の建物に侵入して行われる犯罪（侵入犯罪）の現状と最新の対策等をウェブサイトである「住まいの防犯110番」で紹介していますので参考にしましょう。

### (3) 地域での防犯活動

空き巣等侵入者が嫌うのは「地域の目」です。「あいさつ運動」の実施や、普段見かけない人が行き来したり、家の様子をうかがっているのを見たら一声かけるようにしましょう。

地域（町内会等）での防犯講習会や、防犯ボランティア（パトロール等）など、「自主防犯活動」に参加しましょう。

空き巣等は、地域住民の連帯感が希薄なところを狙っています。ゴミ出しのルール（日時、分別）等を守り、路上駐車はやめましょう。

## 窓ガラス用防犯アラームのテスト結果（概要）

### 1 目的

住宅などの防犯グッズの一つに「窓ガラス用防犯アラーム」がある。この防犯アラームは、窓を破って侵入する空き巣などを強烈な警報音で威嚇し、侵入行為を止めさせる効果がある。また、比較的安価であり、両面テープなどで容易に取り付けられる商品が市販されている。

そこで、市販されている窓ガラス用防犯アラームの仕様や性能テスト等を行い、消費者が適切な選び方、取扱いができるよう情報提供する。

### 2 対象品

平成 20 年 11 月から 12 月にかけて、家電量販店、ホームセンターで購入した 12 銘柄を対象品とした。



対象品仕様一覧（表示内容等をまとめたもの）

No.	検知種類	電源 <sup>(1)</sup> (種類×数)	取付け方法	セキュリティ ステッカー	音圧(dB;デ シベル)	警戒中表示 (ランプ の点滅 等)	電池交換 表示(ラン プの点滅 等)
1	振動	単 4 × 2	両面テープ	なし	約 110	なし	なし
2	衝撃・破壊	LR44 × 3	両面テープ	[警報装置 作動中]	95(20cm)	なし	点灯(赤)
3	振動・破壊	LR44 × 3	両面テープ	なし	97(1m)	なし	なし
4	振動・破壊・開閉	LR44 × 3	両面テープ	[警告]	約 90(1m)	なし	点滅(赤)
5	振動・破壊	LR44 × 2	両面テープ	[WARNING]	なし	なし	なし
6	振動	LR44 × 3	両面テープ	[警戒中]	100(30cm)	夜は点灯 (赤)	なし
7	振動・破壊・開閉	LR44 × 3	両面テープ	[警戒中]	約 90(1m)	なし	なし
8	破壊・衝撃・開閉	CR2032 × 1	両面テープ	[防犯装置 作動中]	約 90(50cm)	なし	点滅(赤)
9	破壊・衝撃・開閉	CR2032 × 1	両面テープ	[警報装置 作動中]	約 90(1m)	点滅(赤)	なし
10	破壊・振動・開閉	CR2032 × 1	両面テープ	[防犯装置 作動中]	約 90(1m)	なし	点滅(赤)
11	破壊・開閉	CR2032 × 1	吸盤	[警戒中]	90 以上(50cm)	点滅(赤)	点滅(赤)
12	破壊	CR2032 × 1	両面テープ	[警戒中]	85(1m)	なし	テストモ ードで音

( 1 ) 単 4 は単 4 形アルカリ電池(1 個 1.5V)、LR44 はアルカリボタン電池(1 個 1.5V)、CR2032 はリチウムボタン電池(1 個 3V)

### 3 テスト実施期間及びテスト項目

平成 20 年 12 月～平成 21 年 2 月に仕様や使用性、アラームの音圧・鳴動時間、検知器感度などをテストした。

### 4 テスト結果及び評価

#### (1) 仕様・価格等

窓ガラス用防犯アラームは、家電量販店、ホームセンター等の店頭で陳列してあり、容易に購入できるものであった。購入した 12 銘柄の価格は 580 円から 4,460 円の範囲であった。検知種類は、「振動」「破壊」や「衝撃・破壊」などの組合せもみられたが、「振動」や「衝撃」には「破壊」も含まれるので、実質、「振動」は 7 銘柄、「衝撃」は 3 銘柄、「破壊」は 2 銘柄に分類できると考えられる。

また、その中で窓を開けるとアラームが鳴動する「開閉」が 6 銘柄あり、5 銘柄は付属マグネットと検知器本体（以下「本体」という。）が一定距離以上になると検知するもの、1 銘柄は本体の側面にボタンがあり、窓枠がこのボタンを押して検知するものであった。

#### (2) 使用性等

本体の取付け方法は 1 銘柄が吸盤で固定するものであったが、それ以外は全て両面テープで固定するものであった。吸盤で固定の場合は取り付け直すことが可能であるが、両面テープの場合は、取り付け直すことが難しいため、取り付けの場合は、取扱説明書の取付け位置を調べ、窓の開閉時に接触しないか、アラームが鳴動するかなど、確認してから取り付ける必要があると思われた。

本体を取り付けた場合、屋外から〔警戒中〕、〔防犯装置作動中〕などの文字が見えるセキュリティステッカーは、10 銘柄にあった。

日本語だけではなく英語などの外国語をあわせて記載しているものもあり、侵入者の威嚇に効果が高いと思われた。

電池交換時期であることをランプの点滅や音で知らせるものが 6 銘柄あった。

他の 6 銘柄にはこの機能がなく、定期的に電池が切れていないかを確認する必要がある。

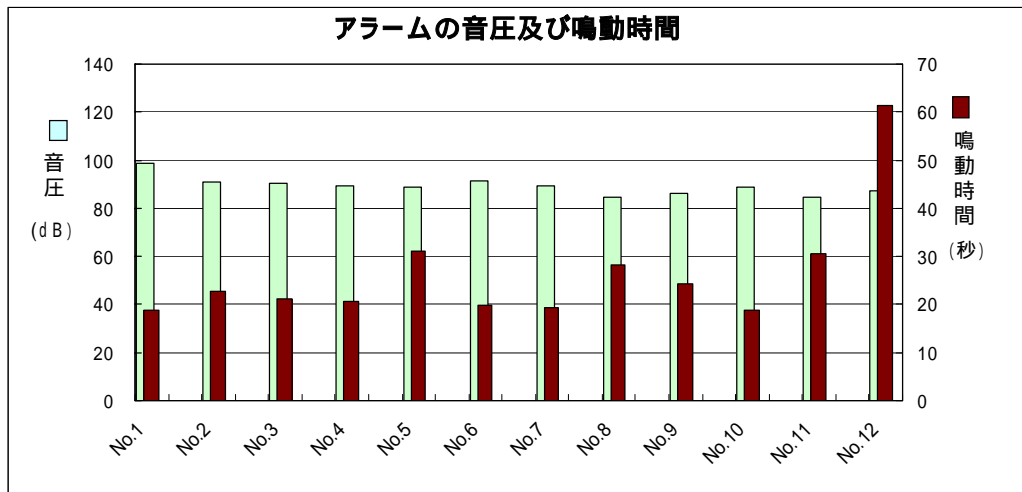


<セキュリティステッカー>

#### (3) アラームの音圧及び鳴動時間

音圧表示は 11 銘柄にあったが、測定距離がばらばらであり統一されていなかった。参考とする(社)日本防犯設備協会技術標準<sup>(2)</sup>（以下「標準」という。）では、標準で規定している警報音が本体から 1m 離れた防犯警報音として機能を果たす音圧は 85dB 以上を推奨し、かつ、聴覚障害の要因となる 120dB を超えないとしている。測定結果は、全銘柄とも、標準を満たした性能であった。

また、鳴動時間の表示は 11 銘柄にあった。測定結果は、12 銘柄中、11 銘柄は 20 秒から 30 秒の範囲であったが、1 銘柄は、そのほぼ 2 倍の 60 秒であり大きな差がみられた。表示値と測定値は、ほぼ同じであった。



(2) (社)日本防犯設備協会技術基準；協会が定める任意の基準で、防犯機器類の性能等の規格。

#### (4) 検知器感度

3 試験球（鋼球・木球・ゴム球）による試験結果（下表）は、3 試験球とも敏感に感知するもの、また、3 試験球とも感知せず、ガラスを実際に破壊しないと感知しないものなどがあり、感知センサーの性能に大きな違いがみられた。

これらの違いは、感知センサーが振動による圧力の大きさを計測するだけのものや、それに周波数選択<sup>(3)</sup>など電気的な処理を施しているものなどによって異なると考えられる。

先の仕様で分類した検知種類「振動」「衝撃」「破壊」と今回のテスト結果とを照合してみると、必ずしも一致はしないが、大まかに「振動」は3 試験球とも感知するもの、「破壊」は3 試験球とも感知しないもの。また、「衝撃」は鋼球・木球には感知するがゴム球には感知しないものとみることができる。

(3)周波数選択；ガラスが破壊する際に生じるガラス固有の振動周波数のみを検知する。

		No.1	No.2	No.3	No.4	No.5	No.6	No.7	No.8	No.9	No.10	No.11	No.12
検知種類		振動	衝撃	振動	振動	振動	振動	振動	衝撃	衝撃	振動	破壊	破壊
感度設定		Hi   low	無	無	無	無	無	無	無	無	無	高   低	無
感知した距離 (cm)	鋼球	50   50	30	50	50	50	50	50	50	50	50		
	木球	50   50	50	50	50	50	50	50	50	50	50	50	
	ゴム球	50   50		50		50	10	50			10		

注) 表中の 印は、どの距離でも感知しなかったことを示す。

試験方法；アルミ枠付きガラスを水平に置き、コーナー部付近に本体を取付け、その箇所より 10cm、30cm、50cm 離れた位置(ガラス面)に 3 試験球(鋼球；直径 5mm・0.5g、木球；直径 30mm・6.6g、ゴム球；直径 30mm・11g)を 50cm の高さより自然落下させる。

#### (5) マグネット検知距離

付属マグネットにより「開閉」を検知する 5 銘柄は、マグネットを柱や外枠に取り付ける場合及びマグネットを中央鍵付近に取り付ける場合も、本体の移動が 50mm 以内の早い段階で検知し、参考とする標準の 7~200mm を満たしていた。マグネットを中央鍵付近に取り付ける場合は本体がマグネットを横切り交差することから、マグネットを柱に付ける場合より若干

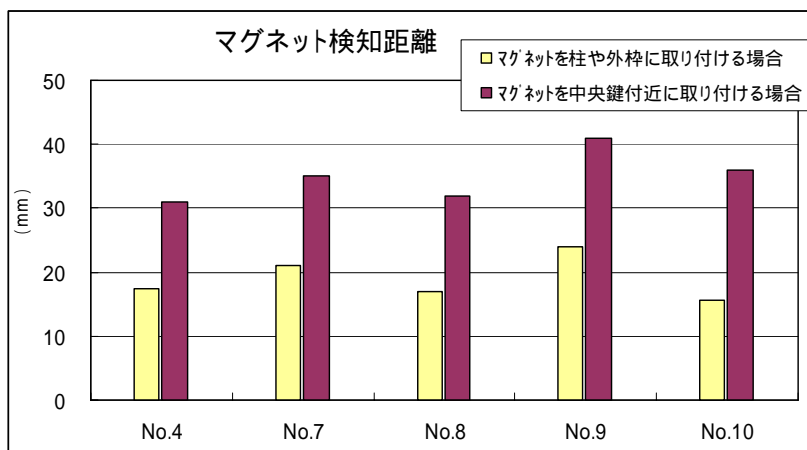
長くなる。

侵入者は鍵付近を狙っていることもあり、マグネットは、本体が他方の窓ガラスに接触しない限り中央鍵付近に取り付けるのが良い。本体とマグネットを離し過ぎると機能しないものや、マグネットを外して本体単独では使用できないものがある。取扱説明書をよく読んで取り付けることが必要である。



マグネットを柱に取付け

マグネットを中央鍵付近に取付け



## (6) 接着強度

参考とする標準では、本体をガラス戸に固定し、10kgの荷重を1分間加えて剥離しないこととしているが、測定結果は、2銘柄は標準を満たしていなかった。長期間に直射日光や四季の温度変化などを受けることから、途中で脱落などしないよう十分な接着性能を保つのが望ましい。

## 5 消費者へのアドバイス

窓ガラス用防犯アラームは、あくまでも侵入者への威嚇や周囲に知らせる目的のものです。防犯の基本は犯罪者の侵入を未然に防ぐことです。

そのためには、「地域ぐるみの防犯運動」を進めるとともに、侵入者を防ぐ防犯性能の高い建物部品（CP部品と呼び、ドア、窓、シャッター、鍵等において、一定の防犯性能を示す。「防犯」Crime Preventionの頭文字を図案化した、CPマークが表示されている。）や防犯設備（防犯カメラシステム、センサー付きライトなど）を活用するなどの取り組みが大切です。

### (1) 窓ガラス用防犯アラームの購入時に留意すること。

窓ガラス用防犯アラームは、ガラスが破壊したときや大きな衝撃が加わった時に感知し、アラームが鳴動するのが基本ですが、鳴動時間や感度など本体の性能にずいぶん差があります。取り付けたい窓に合わせて、必要とする性能や大きさを確認して選びましょう。

電池交換時期を知らせるもの、「警戒中」などの表示があるものを選ぶとよいでしょう。

マグネットが付属し開閉でもアラームが鳴動するものもありますが、開け閉めの多い窓では、その都度解除、警戒の切替えが必要です。また、マグネットを外すと本体単独では使用出来ないものもあります。このことを考慮して購入しましょう。

### (2) 窓ガラス用防犯アラームの取付け、維持管理で留意すること

取扱説明書をよく読んで、取付け位置は本体が窓の開閉時に接触しないことを確認して、スイッチ切替えおよび電池交換がしやすい高さを選びましょう。

定期的に正常に作動するか、電池が切れていないかを確認しましょう。